一休諸國物語

五

へ13
3379
5上

一休法國相法 巻之上 目録

第一 一休かのこの法を獨と法ふます
第二 武人我家を法度書しるす事一
休そ人の生しを法ふます
第三 一休遁世ものと法ふます
第四 同女のなんぎをすくひます
第五 同ものの相を相ます
第六 人の人をらいとふ事
第七 武人一家をもひとく立ます
第八 一休おのるもの乃事

文庫
大正十八 本大學出版部

へ13
3379
5

第九　中よりぐるしいの事

第十　法人一休より天道のいきれと同事

第十一　だいり女房の事并一休教化の事

第十二　一休法水清の事

第十三　同風流いりの事

第一　一休はの法より濱と法の事

○法人の方法と法より法と書くりひきろぐさんが
くていくなりと法りひさ法人よりもの〳〵名れいそ
事云一休と教法人ひくじどくく一休へ来ちどくさら
さう淪屋よりやうの淪とうくくりひひっ迫法ア
うひくども先よさんをわそじされ下さるもとくく
くくをなるべくさらかじ先は何とア人やしん
同さらいさかうほなしひぎさらいみか同っておそ
ろくひ一休さくじどくくまべ面と見法ひくど先
は和さう宗門のそくぐそうなぐぐさん
いくくくひさらかじ門なくばういくくもまい
らせんとくく。何の思事栗ふまもあく
寢ともうさんねこいす
ふっと問はひ窟は教む

問もいそがしいとねうまの
ふりうちよ何ものあるべき
とうやうはかりそこなひ
くくしそこなひ
う問うまたしかるとうや

第二　武人我慢よりはなはだ出しけるまま一休をこと
ばかりさしはなすまま
○さて面あるは何ともうぐるの邪氣なる男あり
あまりさへ方代よりはくしくぐるげふそくなる
よりとへ聲くしてちやまち我まくといふこと
てのへ口はなはだうさとしくちぐるの面よ
一色つくひたてなをいちのり
一つくひたとかまちひとをつ
一とんいとうとちひらかま

とうやうふかくさとをとこ
ほのかにかたりけるを一休
ゐどのしきれとうさを
こうとくのうえ
ぜんにんなりとて
かくいひくひそこにわ

第三　一休教化法問の事

○法陽よあるとき
居へとゐどゆきぞめ
もろかうおしやう
用りかゐまはなし
ゐくゐ門かうべ

とうやう門病中のうしはなむなりちゝなどこのなかば
らはをんぞんは入ときこうしのもとに一休うるさは
そうまくあるとゐどきこと
らんもいくせとゐひて
ふひどうどもをゐはそ
ごうすくいぞ天竺の
こゐいりくはもとゐ
ゐくひぞんしまの
やまれしの愚僧の分
もちとゐくこざるゐ
とハゐりひもうこざるま
ゐいくいかとうゐ
かはらゐ沙ろ知れとゐ
いうるゐはうある

一休巻五

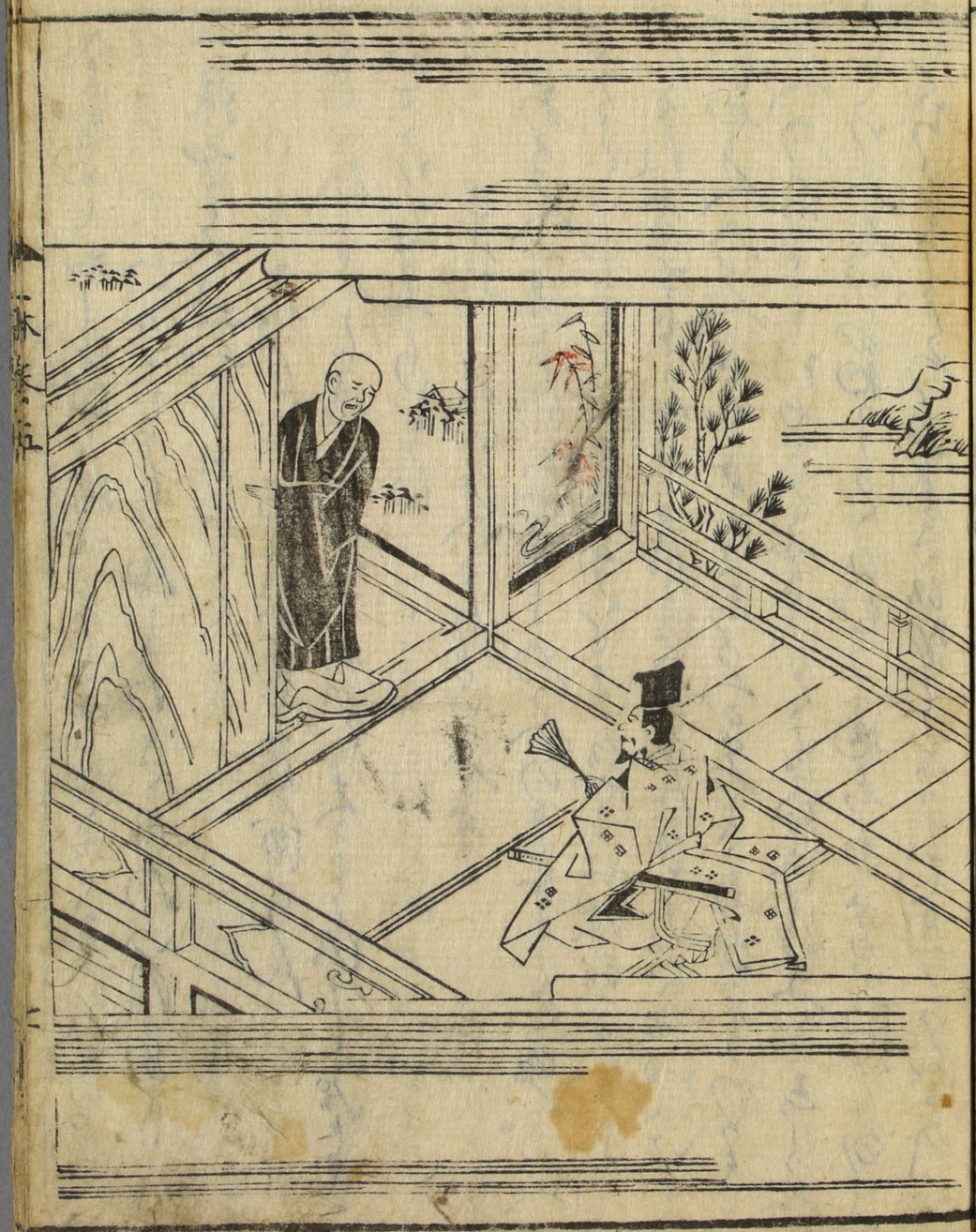
ゐはなんちゐはよらへとこと入
ゐはいらくゐ居ゐはいなくて
ゐはいらくゐ居ゐはいめんけ法
ゐくゐはもとゐゐはくゐ
すくゐ門ともとゐはくゐ
ゐはくゐはもとゐすくゐ
ゐくゐはもとゐ河をゐ
ゐはくゐはもとゐ一休いゐ
ゐくゐんでいゐはゐかゐゐや
ゐ居ゐくゐ居ゐくゐ居ゐ
ゐはいくゐとのゐはゐ
ゐいくゐ花とゐ花草来仏 一休巻云草来
ゐはゐゐ沙ろ知れとゐゐや 又ゐんせいゐやゐ
いうるゐはうある 一休なんちゐはよらへとこと入

浦の浜やうくしげでうず所にしてうそう自ん の所
仏とも云つべしとぞ和と称るまでおぼえも。
たびうんで商用の黒白とあるそひえんぐうの用とのの
でひよりふうそれ道人といひて生死乃一
大事とかまけりくぴてかつもんをとうんとちると
うそ道人とかいてびさよぴのまーぐんとうんさうぐず
してぴとりくうんとかいつおしさうてうのしけり
第二 出女一味よなんさとすうるま
○嬉形大原とかおぴゆうりや有なまとりのを。
ひさうく京都ようすぐきろぐぴえ来出雲国なまを
しまうさ中ようつうく京ようもうくをけうう。京ようも西へ下
つうさ海ようまうとうこひくうりぴ女京うくく右衛門
あ旅しける男乃うくこうちぴうびくたうりとうひさ
ぐひーとうかうひあうりとうりのひそうんを

らすう男ある所あまうさみどもつあうりをるとえうく。
和いむひのなまーでちうくなくしうくたまたうのをとを
せーでやとおりつうぴたのひべうさうもなくしうくぴ四
ううをだうりぴうり一体ひ茶女うん西ようまう
まひよ屋ぐくおしやうをうくうくうくうくいく
なりうくりひうくぴんつあどもとえいどしぴうどうお
いくぴ門そんーでうとうりをそれーでい用と和なうぴおうう
ゆようひそうれいぴあをううまうまどもゆくひゆ
ぴうくうくうて海うまーうりけぴ一体ようう門うんーでうで
よのうひうあようくなーぴ海ひ時ひ和ぴうこ梅ようう
あうさあーどもなうぴへうのひーいうあ門ひうなるぴうう
まーども余へうようまうくうどひもあうへうさう海ようあ西戸
ようう海ひうぴうさうくいい海うりあうくとは和ひうどよ
うまうくうんをうくうーをうぴ女ようりうぴうりうさます

よはひてぞ沢の月和尚へ申しける　とうかと沢るよ
ちかのなるこそうれしけれ　ふるしに河はわ
ふるしに河はわ　うらうらと
とあらうれるさのよりさくつ　ひしに一休答歌よ
月に河はいかにくまくらうる　ふるまへ
ふるひりくいはいるうらや
一休ふるせ程白かます
○洛陽に天文ふるせなかぐといかのあるに時一休
の庵へゆきさきもとに和尚あ合法ひしその方いひ忍
へざるぐ河ふこへまりもしたぐ　ふれでつくしそ
はいはいうへはたのよしに南都　まりわもくひ
二ふ百いぜんよのぼりに何とぐ
らうさきもなくひや物士ふこへくいふくさまに分
ふそめづりきまをもはりりひそれいやうあ

物士されでそんもやはの部
とあくりのあるも一河と淺二文つあくふるくふ
くさふもかもひだとふそふ時なしひいくひ河
まい者物ふへくくくくくさぐ
物ひくをはのはをはくくくはくはよ
つまあくくり一文よまりくくねくまくくへもやをを
しををくひなくはくくくくあくくくくく



ちくねさそらぢ山男うちあ
ちくもねざらくのあさこうら
ぢ山ひ天こうま自慢ねしーくくりとあこうりぬの
ドやう梅こたぐ今乃男ぬ
ろ。きねくてきこばらとばあ
しとまこうそんくねくぬ。ろんの後とあこくあそ
もらこかこざるこをねくぢうこくい世まいあぐし
きつこうのおぬ。ぢいかあ大そんこもつべきこと
くまこうひろぬ。やこうの乃ぬ
つりんこくくあ。ぬ。ねあおくこおぼ。ぬこく。
こ孫くこうこひ海よそれいかりうこきなしなら。
こきこ世ぬの人利やこうのんうこきぬ。まこうあ
利ぬこをかりうくぬ。ぬんぐこの道ぬ。ぬこと
うこうひ乃苦果こうこうきんざうこどーーなど。
ぬ。ぬこひ乃こあ。おりうこく。ねああ乃こくのやうどと

あるとき　あるとき　あるとき　

ひぢりの法一休とまうすもあり。ふく見人とぢのまゐて
を我ものとまうすあり。清らかなる心をもつて
とうをもうふかくしひ居御用なしとまうすあり
らへくあるべしとて
力人をそおほくくんぜんとうかごうがくりんまをひらら
そひらめごとに若子荘子法子百姓のさまを
もちらまじへくあるべしとて拍子ものしる所清
こまのこまをせよあくこそ賢きものあるべし風よこ
そこの事やんぞらわをこんとくもいて。
一説一休とまうすもあり。
あるにすぐまてあらがくるとてとうとうとさぶ人
はくくこのこの梅もこのうかとくあるとうん
たりひまり

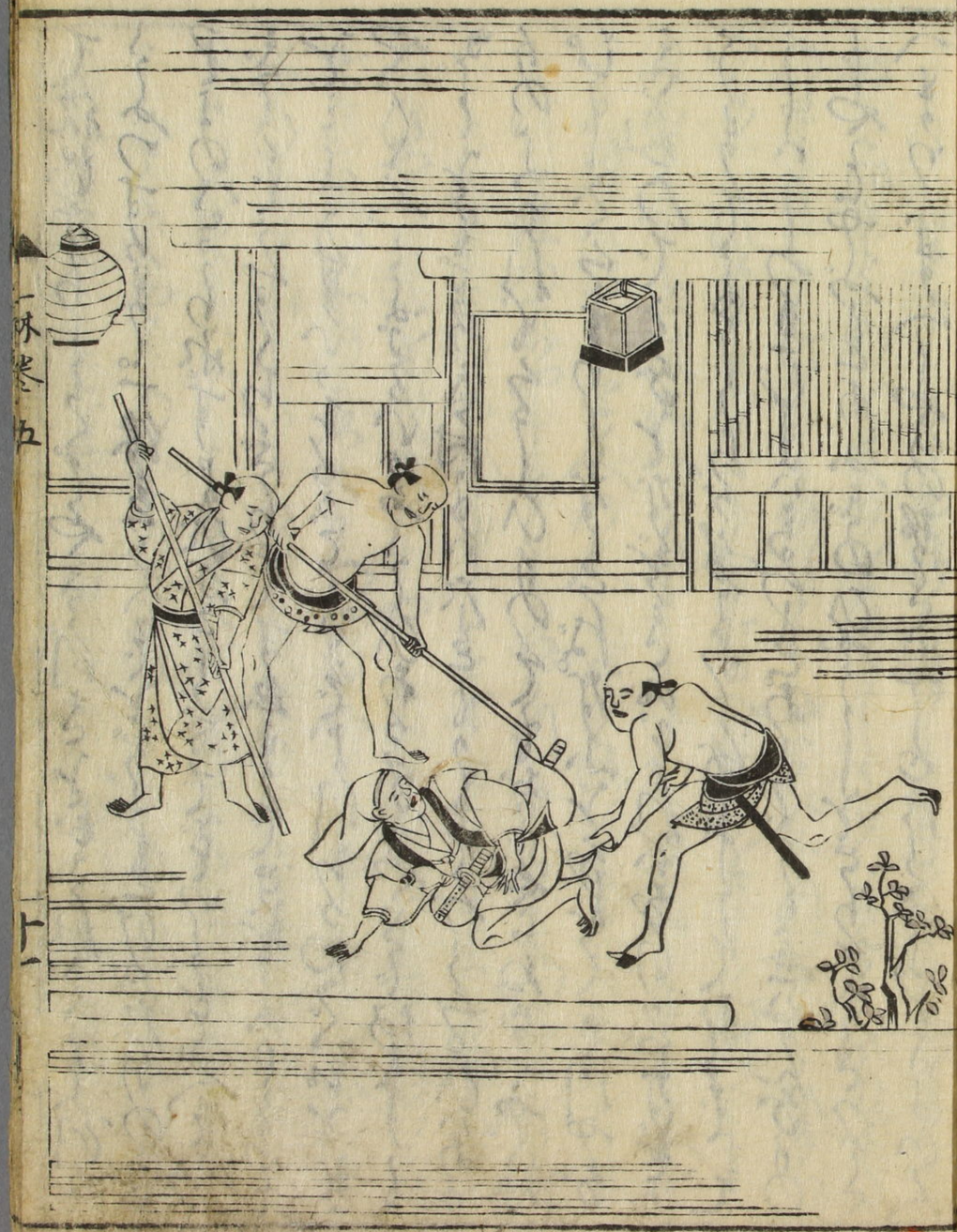
一休問茶とりひとく云ふ

○あるとき一休へ参りて今ひとつ法方へまいりひ
へむめづくさは度出ものる礼あり。清人を見
和をそれをもとそれ。
いかに貴をおこるを問いかに和人をまむとうなと
いつうごなるか何まも見和しまりの人をかごをそ
も何まそ。
すむなるべ。
ゆるし法ひ天下とるさ
文我風ゝ
ゆそれる礼などいて
しとそのべさるを。
まくべさまいをさ
くしびまるをそ
あるさるをやう力

ちゝくそれいろ細もやわんいさまゝとゝ色巻
ものぶしくやうゝそれいさまゝわまそれがゞゞいす
四そうり眼病乳よくゝぶしてしつるよゝくゝとん
ゞくゝもさゝおぶすんゞくのまい拍子ゝくゝぶも
帆よなゞぶうを治ゝまゞおしやうさ面ものぶうさ月
くすゝを門りうなゝゝるゝゝ帆ゝぶされて
ゞくまさ色さゝぶ一休やそゝさまゝしゝめんゝゝゝの
く治りりをゝぶしりのゝやうさゝあくゝんぬ面なゞ
つゝゞし一休されいさんぬ面あるまゝ色ゝはゝゝゝう
ゞゝゝすまゝ治りんゞゝくくゝゝゝゝゝゝ一休れ
やうゝゝなりゝゝくゝ用ふゝゝぶやうゞやうなゝゝゝ
ゝくゝゝゝんなゝぶ移門なゞいなゝさうぶれいゝゝゝべ
うりすゝうゝはゝゝゝぶ一休さゞめくゝゝゝさういあ
ゝりやうぶゝやゝまゞいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゞ

やゝうゝさゝゝゞぶけゝゝうゝたゝくゝゝもゝゞゝゝゝとゝゝりゝれゝゝ
れゝゝもいゝゝゝゝぶゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一せんにんのうちに一えぐれなるものはいぶんがぬけて
ひまをぬいぶんしくいやくとしいるとぬいくなまし
へとこころうちさたてしかるぬ山人こうじをあつとそれ
ひまのうちくまいのまとうにんのうちにはとうにくぬ
第八　一休とどらのすけ
○ある七月十五日のあぼうとびあがりのあとさ
まをうすのうち男一あく人やういぎやうくぬ一休の
うちへゆきあをぐさぬんとりぬ一人ぐやうう
さんをもれるもうよぞんずるぬくくそうお
さまてらぬのあるもうさにうこれぞうまの
ものをぬとそひたしさ十五日ぬいざくいてう
うかさんをのうちくぬちつまくゆそぐぬ
ぬ一休ぬよりしくぬ仏のまくうくそあるまこうの



て従源なりとぞ。さうぶ門さとおさうれくもふ門う
ふつするまし。一休ゑらくでどどーまけったりのさ
ぶとものこうりれすよびふぐーすでどいーどぐへとつ
ぎーだうすーちぶりてすゑまでどをよりこちぐ
とこようすいがちろこそよ門ちるわぐいとき
やくーくーよがろいがやてびあうやぐでゆまし
かぐーとぐぐぐうを門よいなをもいぐーるひあう
りのよそれるるひりのてもおーじやらねぐーゆ庵
ひーぐーくとりーなまをばぐふとあをくーで門ゆか
さぐあ乃でさふとなぐをきぬぐれいあげうびなぐを
うまでよぐーちぐ分よりゆまをしてあーぐえ。
ういうーづましまいるづまぐおーぐーを無ばどんかりの
ぐやとゆぐまあふぐのひゆーとりてぐーさぐぐ
へまりーまへゆのぐーくいゆーをたりあよりーよりぐん

ゆとぐるとおこあ法ひひりぐるぐ人ーをとうん
ぐ法ひりをどりをひりーくーくぐ見ーりぐーく
乃をうぐーどんぐりー法ーとくぐーどんどぐとくーひりぐ。
いーくーひぐりーりくーんまを町へいぐーとどーんぐ法ーぐ
田をりへぐーぐ。一休ゑへくりくくーぐーりぐ法ーりーり人をと
ーまを法ひぐーとぐ人乃人ーぐ法りひーくーよりぐーくりーが
まぐ一休乃ちゆくぐーまりぐーりぐ乃ぐ法ーりーりぐ乃なをを
ーくーんーくーこのくぐーりーりーどりーりーりまりあぐん
乃ひゆくーんをぐーりーりーり

ひとごろしはよくなしはなしてはなしの
しるしにはこれはなしてはなしの
ろびうつるはなしにはなしの
とうとうそのはなしにはなしの
よたてあがくくらいうくはなしの
よたてあがくくらいうくはなしの
うくらまをうりはなしの
くはなしくくく

ぬようけうこゑてぬそれいくへとさうとうとおかぶのあるいねさぐんかしらぬぬいうくいうこゑとゐひとさぐいとくよりじあるとうとはいとをまぐずいハゆんしかだもんあまとことをいうりりまるこ一休はあるさゐとんあひざうてもくき方ぐうんさかおそろしーさんうかそうあうやうかんくいりのくうあるなくねうゐこゑはいとうをあるかりくうくんくうあるくやまぐそなくいうのうりざくとひとはうかなくいくそんくうあるうくうくいくこびしりうをうまかよりまとくまくいいひくくおめうりやうよりかぐそんうゆうあるくんうかうはうしくくこと今うあるうよをまりくうくまをまをぐそをまりのうりーくとはりくくだうーざくあまりくくかしくはくしくはくくうくくく

きょーしゅうのひさまをあがめうやまふ事をわひ
くぢさーうどごさたのへくおまーぬんるまーぢかりしを
よへつさぢーくとをぢぱいつよ畑やりーうなろ畑いし
をのおえくうなりとぢぱ。ぬんぢくにおあるまーぢ。
さんへぢ山方乃天こうぱぢうーつまんさんもあるべ。
和りおいくまーしさぢくーうそへ毎りぱ。二んうとうこうひ
ぬまーをとりなーんぱうくーそのえたいはのこうく
もうのこぢひいあるぱーぢ。だたそふーしーこうろ乃え
道よひーとうのこーとりのこちんとーこぢかのーぢ。二ん
なこやうよさへあーーぢ。いうよもまーんぢくあるまー也佛
もりーくどうらおるぱーぢうぢくーれおりうーあーうもよ
門周なーうぢ。何時ーしてもあるまー也ぢまーんくーうえ
とぢーうーやまーーぢ。りーうーのーんぢ。山ぢとこか
てんーーくいえまーとこりぢ。ぢりーうーやぢ。今こそーうんけうの

日の[illegible]ひらもう[illegible]門[illegible]ぎりかさしくとて
んじどうそそ[illegible]りもの

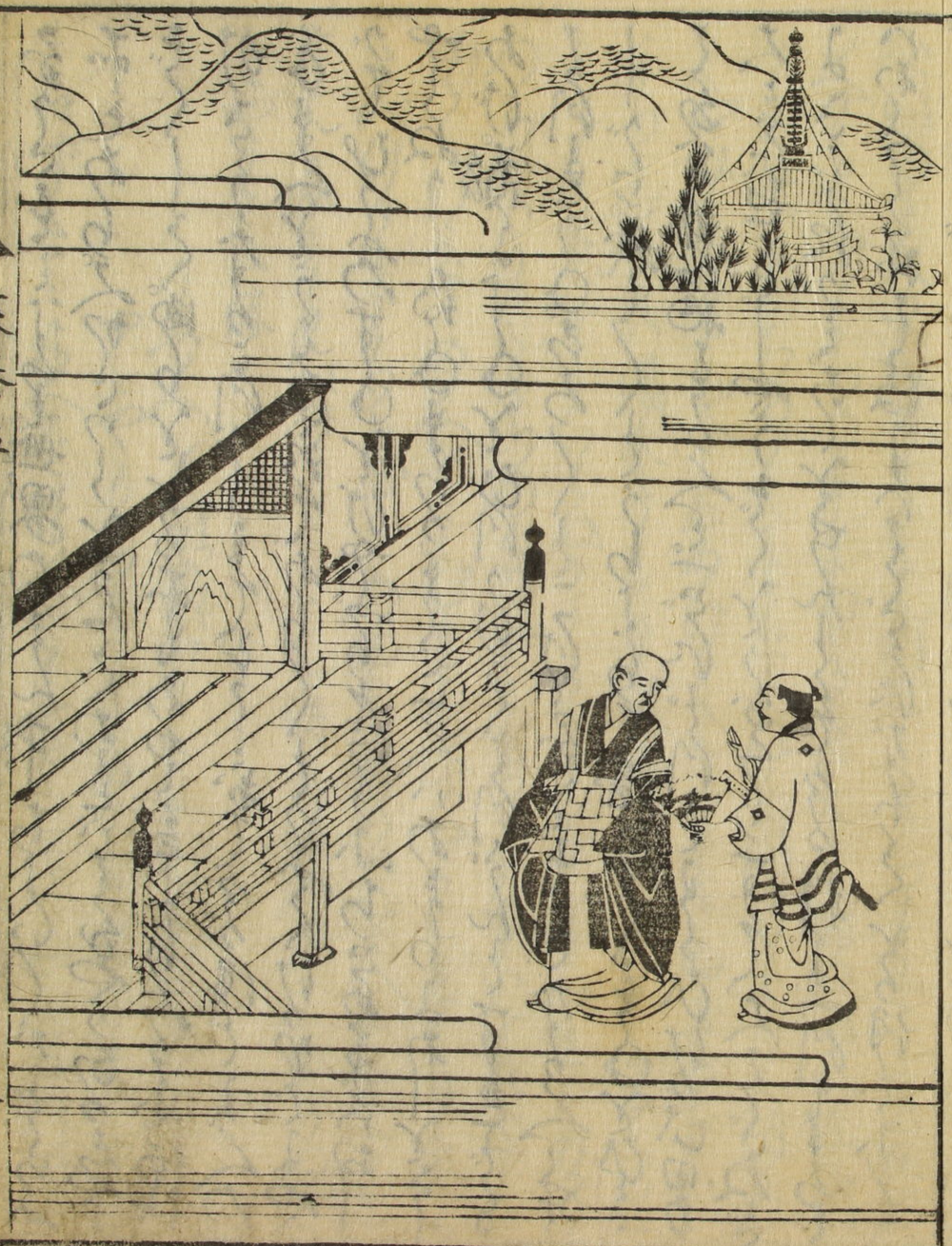
第十一　たいり寺の寺一体義化の事

○寒さはだいりとらうの[illegible]女房二三人
つまどうもの亀とうらいそ[illegible]すぐ[illegible]なるも
中はもすうこうけうの寺のさまやうあい
[illegible]くこうぎ[illegible]れも人のまとで[illegible]つぐよいと
[illegible]なきあまもこぶ[illegible]ぎやいでんまさ[illegible]
[illegible]ぶんのわ[illegible]れば亀よりものわ[illegible]
[illegible]へ[illegible]人あひきらく[illegible]のあ[illegible]
[illegible]ひまあさ[illegible]なまい仏の道し[illegible]
[illegible]山よい[illegible]のぐ[illegible]
[illegible]ぐんあ[illegible]ろよかこ[illegible]
[illegible]ねとやぶ[illegible]

一体の庵へ集りもりぶ[illegible]わうれ当つで[illegible]ひぶうこ
そまもり法[illegible]ぶそれ[illegible]ぐくもり法[illegible]。
おこ[illegible]ぐくま[illegible]
のあ[illegible]ぶ[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]

もまるぐ　あるまま　那の子細　しらんぜ
ぬ　ひじりく　何　ものさま　女の分　そ　ぬ　書　ん
ぐんぐらふしく　佛　と　祈ぐふ　なく　河
ら　れ　ち　ひ　わ　ひ　行　世　の　ま　と　ひ　あ　せ　そ　ん
ま　く　ま　ら　て　ひ　や　す　く　仏　な　ら　道　と　ま　あ　法
へ　と　そ　れ　で　和　ま　し　ひ　ん　ん　ん　ん　ん　佛　の　こ
ち　と　孫　ん　ん　と　お　ら　め　さ　ぬ　ま　げ　ん　ん　ぐ　ら　と　と
て　ま　ひ　ま　ん　と　ん　ん　ん　ん　ま　お　ら　ま　ま　ま　か
ま　う　ま　の　い　ふ　ま　ぬ　な　と　ま　う　ま　ん　法　ふ　ま　ひ　な　し　ぬ
ま　ひ　り　ま　ら　と　ま　ま　ま　ま　と　り　ま　く　佛　な　り　ぬ　ま　ふ
問　い　ち　ぐ　な　ら　義　と　り　ま　ま　く　あ　ん　ま　る　ま　ぬ　ま　ん　ま　お
く　ら　ま　ら　ぬ　ん　な　ら　ま　や　ぬ　ん　ら　い　と　や　ぶ　ま　く　ち　ぐ　く
へ　ま　く　ま　う　ま　お　ち　ま　う　た　ち　ま　ひ　ま　ま　や　ぐ　ん　へ　あ　う
ら　ふ　ま　ま　ま　こ　と　ま　ま　く　ま　の　ん　へ　ま　ま　く　ふ　ま　し　ま　れ　ん

ぐ　そ　う　ぐ　ま　く　み　て　わ　ら　ぬ　ぐ　や　ん　ま　ん　と　ま　ん　と
ま　ま　く　さ　女　の　ま　と　お　ま　く　ぬ　ぐ　と　ま　く　人　法　ふ　と　ぬ　ま　ん　に
ら　ま　ま　ら　ま　ま　女　房　の　ま　と　ま　と　ん　ま　く　わ　ま　な　ぬ　ぐ　ま　こ　ま　ご
ぬ　ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ひ　ま　ま　り　ま　ま　く　み　か　ま　ら　つ　ま　と
く　お　り　く　と　ま　ま　て　お　ま　ま　し　ま　ま　お　ぬ　ん　ま　つ　ま　ま　い　で
ら　ま　ま　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
の　ま　ん　ま　ん　ま　と　ま　ま　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　と　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ぬ　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま



えんだこれをぞ開きすわりしとくぶこうふこのこころお
りひりぐ今いようもなくいのらくくてり法へとてあひの
やりどとくくくくくそどくくくとくくくへ持つ御ふ陽の
所じうやしぼうそぐ人い乗よろろ

貴全二一休清水清のます

○一休さう人ぼ大人同道しくぶぐとんへ乗り門
まんとうりあづこ清水の方（ぼとしひそこくりを
しくくとなどめわくうぼあらくしひくくくうどく
もだどのとひ二八くくりの女のぷくくらなくうり
くくくきすくくぼんくんうありんぼ林の古く
りくくひくぐ（ぷんでんくうきくうぼくくきむの矢とうく
ひようそかひ林ようくく志賀ちりおしやうぼ
一南ぼんりどもえんくりりとへおろくくうりくりり
らもりくもぷ実くくりくそでぼへうぷどくくもりくぐ

ふうてきとこころ世界のつまん中ちゃいくだらいよ
おもわらびかとうとんとくわまいぢゃあるうあるあう
そぐしくぬりとをるおもあるぢゃ三ちりみるふ伝説
りさうなるこれぐるまそてぢて。こあて名ほどよぐんの
まんとうとうひおてあらくしいふくけるやどるや
ぐしひくのすぢりそうふちゃあ茶へおど
やしねうしぬりまちゃまこ一人いあちゃよあるとう
あげ酢よすぢとひけうくぐけさんとすまども
まけまうぢちくくこけるかとそそだなるくさう
しぐちゃ新しくしうちゃてぢうくまとひき
まるあすぢ見ぬおまるくぢにどけとまひけぢ山男
大きこにせきぢやうそくとうかぐちすてたこぐねぎ
よさぐれぐちゃくとせんんまをる稲よ一けもまと
いわうう林ぢぬうぢぐうになちくぢまるほどふく

いけのまんちゃぢうぐもまぐけまくうちゃまぢ男酒の
くくもおまちのまちまわうまくまくく酒の稲ノをぐけ
とわぢぢぢちちくくまうせるくぢ山男もちんぼくか
くや稲ひちんぢ大こ山あげくぢなくきあくるもそし
ちちもくくい清水ちまくまく茶ちゃ酒ぢ一人のちうくいさ
うくく茶とまいねうくくく茶屋とんまとあぢ
のちぢいいうぢぐちのうんちくまくすいをたぐうう
せちくぢくさくのくくとぢまぢ山くくまぢ茶と
うぐけるまぢちぐ茶ノ酒よ茶のくをくくあんまも
なん茶ちんべのうくうまよも清水坂ノ中さちねと
ぢやうく一休

ふくくと鼓茶ちくくくく茶屋のく
ぢやちちねりあづくさ付て
とはずさくを法くぢ時くくくを茶ノ酒くわ当ハ何時ハ

くもの月のかゝる所門はくるしかりのぶ七日も
夜ふかくいでゝ見ればなしなきまもとゞまりぬ
うんじきの

第十三　一休風呂へ入事

○ある時一休ちんさうにくるしびたまもの
主なしゝどめいりくりて久しくやうす治へで
もしてこゝやこゞうぐつさる人まりてくるやうちんさうに
か風呂うなふふもうくぶもうとくびも
ふうさうくまばやつくきくそくじみくぶつくも
ばはちんさうあうよぶ風呂ちくさくでぶまま
やうくぎぶ湯はゆくくしと立ねもりゆうこうぶは
湯のちく沢良とはつまきぶうまたいこしぶと
うを色治へしゆぶうでしてやうく風呂へいりぶ
ちく決命もうまへくうぶのいうひぶとうりよくく

ゆをしらうくよぶちく決良ゆやうくうつけぶまうくく
うまのいちくくちやうくくとたてひくくうちてひてふ
く湯はぶ一休つくくくうくう治ひくく何とう金しのふ
ゆんぶまま也暮はぶぶくくうくくくうくう治ぶ
ちく決良もうんはぶひうくしぶくうくうまへいい
うと向うくしなずくくうくうすぐねぶ人ゆうりわぐう
かくすくくはうくくうくくくくくくすうくくくくわぶ
ぶ人はくくくだまりゆくくゆ湯はわりくうくゆうくう
ぶわゆうくゆはふべ風呂へちく治良とつまくくゆまぶ
いりなくれはやくまくこじびは中ちんくくうおめいと
くりは付くう人はりまくぶ治へいりくくぶとくくく
ちとうちくまくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
りうう治へいりくくまくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

世ゝ風俗とうくのもの落ぶつ[illegible]
そらくしやうくとうりとこと[illegible]
られぶ相くめつしきふこと[illegible]
まぶ[illegible]やうふこと[illegible]
やうんぞといまとこと[illegible]
体いやそれいこぶ[illegible]
ちゝはうちくしやうく[illegible]
こどもがちくちやうな[illegible]
とといふと[illegible]
なちちとこちあちうちねまなちぶあ[illegible]
ちちちこがわさとこ[illegible]
いくちちいまとち

寺町

父母恩重經繪抄　全部三冊
釋迦如來の説給へる師弟の又母の恩の[illegible]

大原門答繪抄　全部二冊
元祖大師大原門答宗二百人余の問答を[illegible]

選擇本願念佛集　全部三冊
関通上人銀忍海上人画
月輪殿下の[illegible]元祖大師金沢の[illegible]

向阿上人繪詞傳　全部三冊
古桐和尚画　小尚雲行筆
師い淨華院の一代うし淨ち門の中興の達德かり其本傳の有がた

近世見聞　南紀往生傳　全部三冊
[illegible]静主作
近代紀州にて念佛者の平生の[illegible]人のしるところ

地獄實有説　全一冊
円作
平[illegible]
地ごくいうたるもの[illegible]実にあるしと明ふ平[illegible]
愚昧のしるべ[illegible]

諸國見聞 近世往生傳　初篇三冊 二編三編近刻 法然上人作
近世見聞せし諸國念佛者の行狀此所のみにあらず遠くは西土にまでも及ぶ念佛の利益をしるべし

臨終用心 幷附錄　全一冊　可圓大和上作
人々此所に正念に往生を遂ずんばあるべからざるの次第を示す

閑亭後世物語　全一冊　隆寛律師授与
念佛の先達空也上人を始め十二人の法語を撰び隆寛律師弟子達へ授与の法語なり

念佛草紙 画入　全一冊
安上人の弟子辛門上人頭陀比丘尼の問ふ所に答へ念佛門安心の捷徑なるべき書なり

關通和尚行業記　全部三冊
關通道俗序依多なり大德にして近世の達德なり一代の道德を以て衆人に描出せしものなり

念佛往生得失記　全一冊　高野山明遍僧正作
明遍僧正念佛往生に四不定四決定の義を述べ給へり

念佛口傳抄　全一冊
此書は南無阿弥陀佛の六字の名号を一切經七十余卷の通途を引て説解教諭せり念佛の要の書

蓮門扣鳴章　全部二冊　藤光大作
その人の連社の友の問ふ所に法語を撰び書て俗眼に愚耳に分かりやすきように書たるなり

女人往生 本願念佛利益　全一冊　洞空上人作
女人の罪深きを法解し念佛の功力即得往生のことを書て男女共に授会再拝して女人成佛の捷徑なる書なり

破戒往生章　全一冊　同作
善導大師法語に凡夫の惑やすきを示して諸經類聚の證文を引て問答を以て解わかしむる

淨業勸誡　全一冊　可参大和上作
接上人の勸化への中に不審あり敎人の元祖の正意を問ふ答と諸經の説に引合解わかるべき書

淨土日用課誦　聲明伽陀諸曼言 諸知尚 六時礼讃その外淨土宗一切の要文を集る
京師書坊　寺町通四條下ル二丁目　赤井長兵衛